

# 港湾振興便り



2013. 3  
第71号

\*:\*  
目 次  
\*:\*\*

1 ポートエッセイ 「黄砂の先に見えるもの」  
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

## 2 トピック

- 「和歌山下津港海岸で上部鋼管挿入の実証実験工事  
～世界初の直立浮上式津波防波堤～  
(近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)
- 志布志港航路啓開訓練を実施  
(九州地方整備局 志布志港湾事務所)
- 石垣島サンゴウィーク2013を開催しました ～移設サンゴ現地見学会～  
(沖縄総合事務局 石垣港湾事務所)
- 「ロシア新規コンテナ航路就航記念セレモニー」を開催しました！  
(三河港振興会)

\*:\*\*  
1 ポートエッセイ 「黄砂の先に見えるもの」  
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長)篠田 昭～  
\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*~

9、10日の週末、私の住む新潟市は珍しいほど大量の黄砂に見舞われた。日本海側の新潟では毎春先、黄砂の洗礼を受けるが今回は半端ではなかった。どの車もまだら模様に彩られ、慌てて洗車をする姿があちこちで見られた。

黄砂の発生源は中国である。黄砂が飛んでくる前から、北京など中国各地の都市でPM2.5による深刻な大気汚染が報道され、新潟市内では5カ所の観測地点でデータを厳密に取る態勢を整えていたのだが、黄砂の先制攻撃を受けた形だ。

これまでも日本海側は中国の環境汚染により、酸性雨・雪に脅かされてきた。8年前には中国東北部で毒性の高い有害物質が松花江に流出、黒竜江(アムール川)を経由して日本海までが汚染されると大騒ぎになったこともあった。

日本海を挟んで中国、朝鮮半島、ロシア極東と向かい合う我々は、「一衣帯水」の言葉を肌で実感することが多い。東アジアの経済発展は、新潟自らの環境問題に直結している。黄砂の向こうに見えるもの、それは世界第二位となった経済大国・中国の姿そのものなのだ。

そんな時に丹羽宇一郎・前中国大使から新潟市でご講演いただいた。「尖閣国有化から半年、

日中双方に良いことはあったでしょうか」と丹羽氏は語りかけた。日本から中国に進出した企業は2万2千社にのぼり、日中の貿易額は3400億ドルに達している。

「日中両国は、引越してできない隣人関係」と語る丹羽氏は中国の環境問題に触れ、「PM2.5は中国の石炭火力とディーゼル車が汚染源。解決は簡単ではない」と説明した上で、今後の日中関係の改善はやはり経済にあると力説された。

「日中が仲良くするには、中国が必要としている日本の技術をしっかりと中国に入れるしかない。中国の環境が良くなれば日本も良くなるのだから、環境技術は無償提供しても良い、と言う人もいるが私はそうは思わない。大変な投資をして日本の環境技術は開発されたのだから、正当な価値への支払いは当然」と丹羽氏は語った。

日本の持つ環境技術などの価値を中国にしっかりと認めさせるのも、経済大国となった中国が次の課題を認識する上で必要なことではないか。そんなことを思い出しながら、黄砂の後始末に追われた週末だった。

\*:\*\*

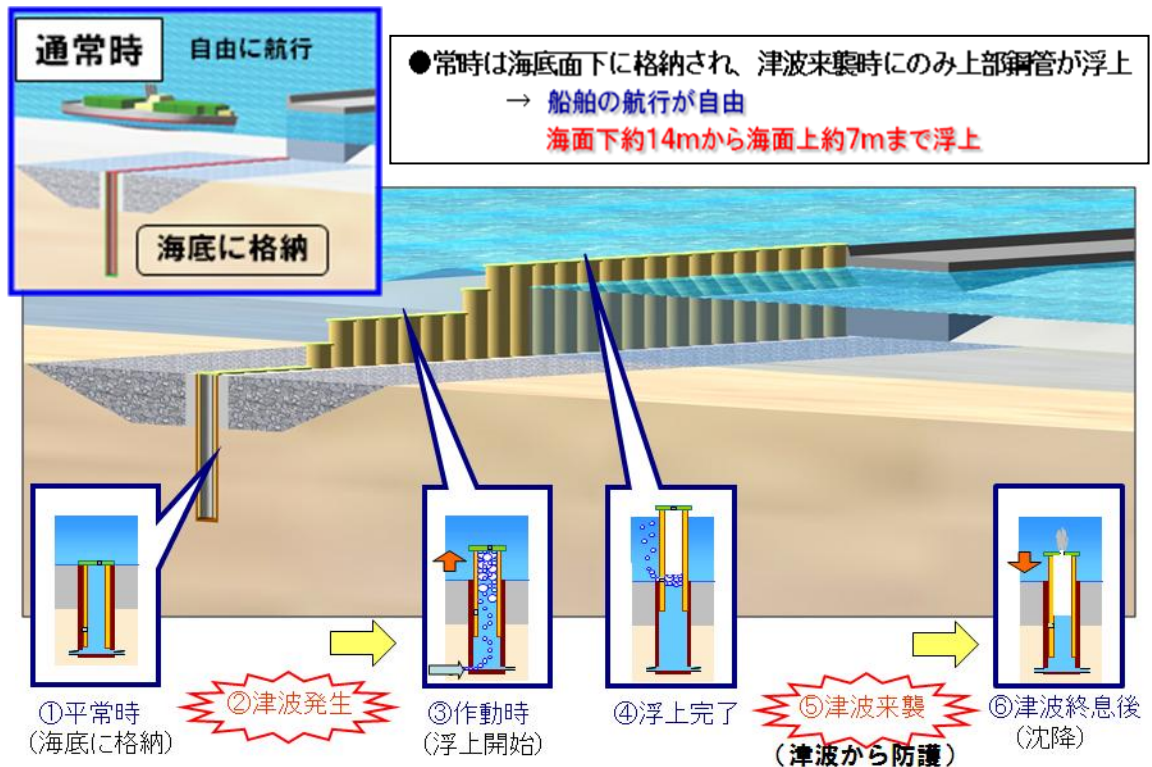
## 2 トピック

\*:\*\*~

### ● 和歌山下津港海岸で上部鋼管挿入の実証実験工事 ～世界初の直立浮上式津波防波堤～ (近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)

和歌山県海南市における津波浸水予測区域では、行政・防災中枢機能や高付加価値製品製造企業が集積しており、南海トラフ巨大地震などによる甚大な被害の発生が危惧されています。

近畿地方整備局は、人命・財産はもとよりこれら施設の防護のため海岸保全施設の整備を推進しており、和歌山下津港海南地区では、世界初の「直立浮上式津波防波堤」を採用し整備を進めております。



この「直立浮上式津波防波堤」について、平成25年2月21日、海中に打設した下部鋼管内に上部鋼管を挿入する実証実験工事を公開しました。

この日公開した作業は、津波襲来時に海面に浮上させる上部鋼管(長さ約28m)2本を、既に海中に設置済みの下部鋼管に挿入する工事で、多くの取材陣に見守られるなか、クレーン船で持ち上げた鋼管を、水深約13.5mの深さまで差し込む作業を行いました。

この実証実験は、延長約9メートル分を完成させ、今年3月末までに空気を送る配管などを整備し、実際に水面上に浮上させる動作確認を行う予定にしております。

これからも、人命や財産を災害から守るとともに国土の保全を図るための海岸整備事業を推進していきます。



### ●志布志港航路啓開訓練を実施

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

2月26日(火)に志布志港に関わる関係4機関(鹿児島県大隅地域振興局志布志駐在機関、志布志市、第十管区海上保安本部志布志海上保安署、志布志港湾事務所)で、災害発生後の速やかな港湾の使用のための手順を確認し、将来想定される大災害に対して迅速に対応出来る体制を確保するため、航路啓開に関わる連絡会議設置・運用の訓練を実施しました。

当日は、午前は関係4機関が参集し、室内において航路啓開のため連絡会議を設置し運用する手順確認の訓練を実施し、午後は若浜地区旅客ふ頭(耐震岸壁)において港湾工事用作業船を活用し航路啓開のための模擬的な障害物撤去作業の訓練を実施しました。

今回の訓練においては、各庁舎機能のバックアップ体制、各機関同志の連絡体制のあり方、ガレキ等の集積場所など、今後解決すべき課題も明確になり、災害が発生した場合には、速やかな志布志港の使用ができるよう、今後も関係4機関と連携した取組をしていきたいと考えております。



○航路啓開に関わる連絡会議設置・運用の訓練

港湾工事用作業船を活用し、  
航路啓開のための障害物  
(落下物)撤去作業の訓練



●石垣島サンゴウィーク2013」を開催しました ～移設サンゴ現地見学会～  
(沖縄総合事務局 石垣港湾事務所)

平成25年3月8日～10日の3日間、サンゴ礁海域である石西礁湖(石垣島と西表島の間にある海域)において、航路浚渫工事に伴う移設サンゴ現地見学会を開催しました。

この見学会は、石垣島サンゴウィーク実行委員会の主催でサンゴウィーク3月5日～3月11日(サン・ゴを含めた一週間)の一環として実施したもので、期間中は、石垣島全島で各種イベント(ビーチクリーンアップや養殖サンゴの株分け苗作り体験等)も開催されました。

見学会には、3日間で26名の方が参加され、始めに事業概要の説明を行い、現地にて竹富南航路浚渫工事に伴い移設したサンゴの様子をシュノーケルで見て頂きました。

当日は、3月とは思えないほど気温も高く好天に恵まれ、参加者からは、「工事が環境に十分配慮しながら進められている事が分かり、サンゴの保全についても意識するようになった」「定期的に行って欲しい」との声もあり、大好評の見学会となりました。

今回の見学会を通して現場での環境保護への取組状況、また事業への理解を深めて頂く良い機会になったのではないかと思います。



事業概要説明の様子



いざ、ダイブ!



移設したサンゴの様子



見学会後の記念撮影

